

安全と環境を考えるニシオの広報誌

# 安全くん

2001  
Vol-6  
54

「現場でも、レジャーでも。  
身を守るのは安全確保、慎重行動!!」の巻



インターネットホームページ

『安全くんネット』もご覧ください。

<http://www.anzenkun.nishio-rent.co.jp/>

〈この広報誌は、再生紙を使用しています。〉

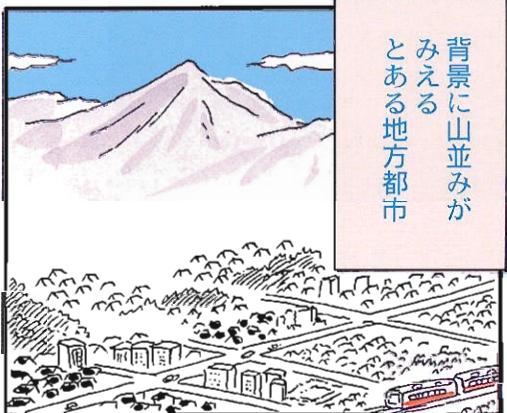
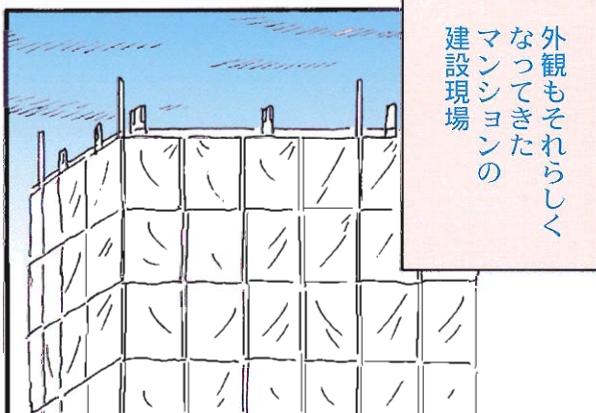
# みんなで 安全くん

画 中村よしのぶ

「現場でも、レジャーでも。  
身を守るのは安全確保、  
慎重行動！」の巻

表紙の掲載機種

クライミングクレーン OTS-15N／仕様・定格荷重0.7t／作業半径・17.5m／最大揚程・49m  
タワークレーン専門部署、建築機械部で取り扱っております。





### 解説コーナー

## 墜落・転落災害は、設備+作業者への対策で防止する。

◆安全設備が充実している現場では、安心してしまってルールを守らない、緊張感がないか、というとそれは逆で、いろいろと気遣いがなめされているからこそルールを守り、事故もなくなっていく、というのが現実の姿です。作業員に厳しく指導するだけでなく、職長さんも元請と一緒に設備面の充実に力を注いでください。作業員は、新規に入場して即、このあたりの状況を肌で感じ、そのレベルに応じて行動してしまいます。設備面の充実+作業員への指導を怠らず、安全に作業が進むよう配慮をお願いします。

### 《設備面でのポイント》…労働安全衛生法などの法令を守ること

- 堅固でゆれないような足場や作業床（安定した構造）を設置する。
- 作業床・通路は、滑らない材質のものを使い、足元や頭上に通行・作業のじゃまになるものを排除する。
- 作業床・階段・通路には手すりを付け、開口部も手すりや危険のないように措置する。
- 手すり等の設置が困難な場所には安全帯を使用できるように先行して親綱や安全ネットを設ける。

### 《作業員への指導・対策》

- 高所（危険な場所）での作業がスムーズに行くよう、作業方法や手順をハッキリ伝え、皆に徹底を。
- 高齢者（例：60歳以上）や体調不十分な作業者は、高所作業につかせない。
- 過去の事故事例などをもとに、危険予知と対策を教育する。



### 解説コーナー

## 墜落・転落災害の調査結果から

～東京労働局 中央労働基準監督署 公表資料より～

同署管内で平成11年度に発生した墜落・転落災害（休業4日以上）のうち、報告のあった99件の事例のデータです。

①新規入場の初日の被災は22%、1週間以内で41%！

=4割の方が1週間以内ということは、新規入場者教育が大切であることが伺える。

②経験10年以上のベテランが約6割も占める！

=新人だけでなく経験者への注意も重要。なお、このうち過半数が50歳以上である。

③墜落・転落した場所は、やはり注意すべきところでした！

=足場関係より約30%、脚立・ウマが20%、開口部からが13%…安全対策の強化が必要。

④2m未満の高さでも、重大災害につながる！

=高さ3m未満と以上が、ほぼ同じ割合となっている。2m未満も目立つ。

⑤危険な高さにいる、と思った人はわずか15%！

=逆に、思わなかったが6割。危険予知活動で危険を意識させ感受性を高める必要あり。

⑥墜落防止の設備がなかった…5割以上！？より適切な設備の計画や使用の徹底が必要。

=あっても正しく使っていなかった…2割。設備があるのに被災した…35%（移動中が多い）。

⑦安全帯は付けていたが、使用していなかった方が大半！（やはり、監視が必要なのか…）

=3分の2が付けていたが、その8割が使用していない時に被災している。なお、着帶もせすが3分の1も！。



# ヤンさんのワンポイントレッスン

## 『ASIMOが、高所作業をする日』

◆歩行ロボット“ASIMO”。自動車メーカーの技術者が、より自然でスムーズな動きを実現する為に、次の動きを予測して予め重心を移動させる「予測運動制御」と呼ばれる機能を追加してスムーズな動き（歩き）ができるようになったとか。

◆そこで、この“ASIMO”に高所作業をさせられないか…？

そこまで出来るようになるには、数え切れないほどのセンサーと検知したデータ（足場・手すりなどの作業環境等）を総合的に判断し、瞬時に制御できる機能が必要になるでしょう。“ASIMO”確かに素晴らしい技術ですが、逆に人間の能力のすごさ、複雑さに心配せられます。

◆私たちは、高所など危険な場所で作業する際に、様々な情報（過去の経験や知識等）をもとに、体に備わったあらゆるセンサー能力を発揮して体のバランスをとり行動します。つまり、現場のルール、何が危険か、どうなると事故になるかという情報、体のセンサーを常に良好の状態で機能させるための健康体、またバランスをとる為の筋力、そしてルールを守る、事故を起こさない、という意思が推進力になって総合的に判断し行動します。

◆ここまで考えると、どうやらまだまだ“ASIMO”に高所作業をさせるわけには行かないようです。これからも情報の収集、体調・筋力の維持、そしてルールを守り事故を起こさないという意思の力で、安全にそして良い仕事ができるよう心がけてください。



## 侮りがたし1m！～可搬式作業台の安全～

作業床高さ2m未満の可搬式作業台。従来の脚立やウマ足場よりも安全ではあるが1m前後床高さは危険を軽視しがちです。作業前の点検ポイントと危険について考えましょう。

### 室内高所作業の危険

作業台による墜落、転落事故の多くは足元よりも上向きの姿勢による不安定からバランスを崩した結果です。天板上で電動工具の反動で墜落する事故が多く、1m未満の作業高でも落下姿勢により死亡事故に繋がるので油断は禁物。作業台の脚元は部材等散乱せぬよう整理整頓をしましょう。

### 可搬式作業台の点検

作業台は設置場所の安全確保とともに機器にも始業前点検が大事です。

《目視点検》①天板、踏桟に油、泥が付着、曲がり、亀裂はないか。②支柱、各部の接合部、リベット、ねじ、ピンに割れやゆるみ、抜けがないか。

《作業点検》①全ての止め金具は確実にロックしているか。②支柱及び伸縮脚がスムーズに動くか。③天板、踏み桟がガタガタしていないか。④開止のゆるみやガタつきはないか。

※設置後、最下段の踏み桟に脚を軽くのせ、伸縮脚が縮まないことを確認してください。





### 解説コーナー

### もう冬がやってくる！？

～暖房器具（灯油ファンヒーター）はよく点検して使い始めましょう～

#### ①古い灯油は故障の元

前のシーズンからタンクに入ったままの灯油や長期間日光にあたる場所や温度が上がる場所で保管されていたタンク、最悪なのはふたが開いていた…！など、まるで気にせず使っていませんか？これらは、「不良灯油」の中でも「変質灯油」の部類で、極度に変質している場合は、黄色味がかかっていたりすっぱい臭いがします。これらを知らずに使うと、イ)燃焼しなくなる、ロ)赤い炎ができる、ハ)白っぽい煙が出る、二)強いにおいがする、などの異常が発生し、器具自体の故障につながります。もし、古い灯油が入ったままであれば、ポンプなどで抜き取り、新しい灯油でタンク内をすいでゴミやほこりを取り除いてください。また、タンクと本体の間にあるフィルターも灯油で洗ってください。（この際、水・ほこりは大敵です！）なお、不良灯油は、必ず廃棄として正しく処理してください。

#### ②エアフィルター、温風空気取り入れ口の掃除をして下さい

本体裏面や下部にあるエアフィルターを取り外し掃除機や専用のブラシで掃除してください。水洗いが出来るタイプもありますが、必ず完全に乾燥させてから装着してください。また、温風吹き出し口も汚れが溜まりやすいので、湿った布や中性洗剤で軽く拭いてください。

※今回は、使用前を前提に紹介しましたが、シーズンが終わり収納する際も同じ手順でメンテナンスして下さい。なお、最近「不純灯油」（灯油以外の物質が混入している）が出回るケースが増えています。私たちでは見分けにくいのでメーカーのはっきりしない白灯油や、極端に安い白灯油に注意してください。



## 刃物は使いよう！研削機器の安全 ~グラインダ編~

グラインダは回転する刃を持っているので、誤った使用は砥石が破壊され大きな人身事故の原因となります。また金属の研削粉は火花となって飛散するので引火しやすいものは付近に置かないでください。今回は、グラインダの安全についてまとめましょう。

### ■正しい電源の確保から！

電工ドラムや継ぎコードを介して使用する場合、適正な電圧が確保されていないと刃の回転が安定せず切断能力を十分に発揮できません。また小型発電機はエンジンの回転数により電圧が上下するので、使用するときはインバータ付か余裕を見た発電能力を選んでください。

### ■水と埃に、ご用心！

本機は乾式用ですから、水や研削液など使用すると、砥石の破損や感電の恐れがあるのでやめましょう。金属を研削及び切断する場合、集塵機は使用しないでください。火花により集塵機が焼損します。モータ内部に埃が溜まると故障の原因となります。50時間ぐらい使用したらモータを無負荷運させ機体内の埃やゴミを排出させましょう。

※安全上、研削作業には必ずゴーグル等安全保護具を着用のこと。軍手は巻き込まれる恐れがあるので、使用は避けましょう。

